資料７

大学連携事業について

亀岡市生涯学習推進審議会資料

亀岡市／京都学園大学　学術交流プロジェクト

【学術交流協定／平成 18 年．11．28 締結】
　相互の立場を尊重し、対等・平等の立場から、学術交流をはじめとする連携と協力を促進し、共に充実・発展する目的から協定を締結。
【亀岡モデル創生協議会／平成 19 年．2．27 設置】
　まちづくりや地域振興に結び付けられる「知的資源」について研究、学術交流の可能性を探る。学術交流協定により、事業の具体化に向けた協議機関（研究課題の抽出・共同研究の推進）として設置し、平成 19 年度から事業実施する。
【連携・協力に関する包括協定／平成 27 年．3．24 締結】
　これまで取り組んできた実績を基に、学術交流を更に充実・推進し、本市行政施策の発展に寄与することを目的に締結。

■　京都学園大学との共同研究　■

平成２７年度

〔亀岡市におけるダイジョ（Dioscorea alata:アラータイモ）の普及に必要な技術開発
　～ウイルスフリー苗の増殖システムの開発と紅イモ新系統の選抜～　〕

　紅イモの耐寒性を含めた系統選抜・ウイルス検定法の確立を目指す。また、産物の利用拡大のためにすりおろしたイモの急速冷凍による製品化も目指す。

- 紅イモ系統の選抜
- 組織培養苗のウイルス検定法の確立
- ダイジョ加工品の開発

〔亀岡市に残る野鍛冶の緊急調査 ～鍛冶場の図面作成およびライフヒストリーを中心として～〕

　亀岡市文化資料館と連携し、実施。
（１）野鍛冶の仕事場である鍛冶場（野鍛冶小屋）を将来復元できるように、詳細な計測を行い、その結果を立体図面に起こす（可能であれば立体模型にする)。
（２）鍛冶場の作り方（火床など）および鍛冶場に設置されている各種の装置類の使い方を聞き書きするとともに、使い方については映像記録を作成する。
（３）最後の鍛冶職人である片井操さんのライフヒストリーを聞き書きする。

〔「里山学校」実践の紹介〕

　西別院大槻並で、市民を対象にした里山体験イベント（名称は「里山学校」）を開き、参加者が知識や技術をもちよって、里山独特の生活様式を実践するかたわら、都会とは異なる新たなつながりづくりを行なう。
　第４次亀岡市総合計画の基本方針のうちの「第 5 章　人と環境にやさしいまちづくり～生活環境の向上」に沿って、イベントでの成果を書籍としてまとめ、発行する。

〔亀岡市高齢者におけるフレイル要因の解明
～事故や傷害を予防し、できるだけ元気で長生きするために～〕

フレイル要因を評価し、身体活動量、要介護認定や介護保険受給状況等との関連について検討。
これまでに実施された各種調査や現在も継続中の介護予防事業参加者を対象に、フレイル要因を横断的・縦断的にすることを目的とする。
フレイル評価には、二次予防対象者把握のためのチェックリスト、体力、筋量などを用い、身体活動量、要介護認定や介護保険受給状況等との関連についても検討する。

・サルコペニア…高齢になるにつれ筋力が衰える現象
・フレイルティ…心身の機能及び日常生活の活動性や自立度が低下し、要介護状態に陥っていく過程

〔かめおか里山トレイル＆グリーンマップ　第２版〕

かめおか里道トレイルは、マップを見ながら正確に歩くことができるようになっているが、道に間違うことなく安全・確実にトレイルのルートをたどるためのスマートフォンアプリの開発を行う。

〔亀岡佐伯区と湯の花温泉、地域肥料資源を組み合わせた観光型農業生産地域の検討〕

地域の農的資源の抽出とそれらを組み合わせた魅力ある観光地（湯の花温泉）を組み合わせた新しい魅力ある地域を創出するプランニングを行う。

・佐伯地区で有望な農作物を探索
・魅力ある地域づくりに寄与する素材提供やその導入後の地域デザイン
・農業にかかわる地域資源の掘り起こしとして肥料に注目し、古くから利用されてきた石灰石および草を刈って畑に投入する刈敷について研究を行い、地域の特異性を作り出す

平成２８年度

〔亀岡市内で生産される茶の多用途利用に関する研究〕

荒茶の生産状況、品質調査、多様な利用可能性についての検討
現在、市内で唯一、茶の生産を行っている千代川町湯井の千代川共同製茶工場と連携し実施。特産物に光を当てた地域振興を目指して生産状況や茶園管理の実態調査・生産される荒茶の品質調査を行い、荒茶の多様な利用可能性について検討する。

・生産実態、意向調査
・荒茶の品質調査
・二次加工・多用途利用可能性調査

〔保津川の筏復活に関する研究〕

保津川における12連筏の復活及び筏に関する意識調査、講演会の開催
亀岡市文化資料館と連携し、実施。
（1）材木、金具、藤蔓を用意し、筏を組む。
（2）これまでの経験（『京の筏』（2016、ナカニシヤ出版）において2014年の12連筏の走行について分析している）をふまえ、保津川の保津大橋から山本の浜までの間を12連筏で下る。
（3）（2）の運行を記録し、その記録に基づいて問題点を分析。
（4）筏に関する京都市民の意識を探るためのアンケート調査の実施。
（5）筏に関する講演会の開催（京都太秦キャンパス）

〔かめおか里道トレイルの活用に関する研究 ～亀岡の文化資源に着眼して～〕

かめおか里道トレイルの更なる活用及び仕組みの構築
市社会教育課文化財係と連携し、実施。
かめおか里道トレイルのさらなる活用として、「亀岡の文化資源」に焦点を当て、若い世代にも興味をもって参画できるような仕組みを構築する。
これまでの旧亀山城の惣構え堀と土塁など、文化財としての地位を築いてこなかった地域資源にも焦点をあて、まちを文化資源という観点から掘り下げる。

平成２９年度

〔エコトピア亀岡に収集される廃棄物の再資源化に関する研究〕

樹木の剪定枝等の堆肥化を円滑に行うために、使用する剪定枝等の性状や堆肥化のための副資材の添加について検討を行う。また、堆肥化物について、農作物栽培に適した使用時期や使用量などについて検討をおこなう。

（１）原材料の違いが堆肥化に及ぼす影響調査
（２）堆肥化のための副資材の検討
（３）葉菜類を用いた堆肥化物施用試験

〔かめおか里道トレイルの活用に関する研究 ～保津峡の潜在価値に着眼して～〕

魅力的な観光資源である保津峡の残された価値の発掘として、保津峡に沿って歩く道の可能性を高めるという着眼点がある。かつて筏師の道（京都から亀岡に舟を引いて歩いた道）であったルートには、水位変動の大きさゆえに安全性が不確かなことと、長期にわたってほとんど歩かれることなく現在に至っているために道が残っていない可能性があることという二つの課題がある。これらの課題に加えて、特定の箇所で右岸と左岸にワイヤーを結んでこれにぶら下がって、移動できるジップラインなどの可能性に関しても合わせて検討する。

亀岡市の大学連携状況

29年6月現在

大学名	担当部署	連携内容
京都学園大学	企画管理部 企画調整課	亀岡市、京都学園大学、亀岡商工会議所及び京都サンガF.C.が「京都　かめおか元気アップ協定」にもとづき、お互いの資源交流により連携する。
	生涯学習部 市民力推進課	包括協定に基づく、学術交流をはじめとする連携と協力 ※共同研究（かめおか里道トレイル、保津川の筏復活など）、インターンシップ
	生涯学習部 市民力推進課	亀岡カーボンマイナスプロジェクトおよび1まち1キャンパス事業に関する研究・事業協力
	生涯学習部 スポーツ推進課 総務部 自治防災課	セーフコミュニティスポーツの安全対策委員会の取組として、今年度にスポーツ少年団の外傷調査を京都学園大学と連携して実施予定 同対策委員会は平成28年度から京都学園大学の学生2名も委員として参加し進めている。
	環境市民部 環境クリーン推進課	ごみ減量・資源化のため、落葉等を堆肥化し有効利用を図るための研究
	健康福祉部 高齢福祉課 総務部 自治防災課	セーフコミュニティ高齢者の安全対策委員会の取組として、高齢者の介護予防教室が医療費・介護給付費に与える経済的効果の検証を京都学園大学・同志社大学を中心とする研究グループと平成28年度から行っており、平成29年度に報告書が完成予定。
	健康福祉部 高齢福祉課	広く、介護予防事業の展開に向けた、必要な担い手の育成のための講座の企画・調整
	健康福祉部 高齢福祉課	介護予防事業展開のための、基礎データの蓄積・介護予防の意識の向上
	産業観光部 ものづくり産業課	新製品の開発や農産物の成分分析などの協力及び更なる事業展開を進めるための連携協定 ※かめおか食産業振興プロジェクトにおける開発・調査等

※上記には、大学教員等の審議会委員等の協力は含みません。

大学名	担当部署	連携内容
京都学園大学	産業観光部 観光戦略課	官学連携による観光資源活用・にぎわい創出業務 亀岡市観光情報発信映像制作・配信事業、かめまる体操普及事業
	まちづくり推進部 都市計画課	「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想策定に関する研究・事業協力
	教育委員会 図書館	京都府内の公共図書館等が加盟する京都府図書館総合目録ネットワーク間で、調査研究を目的とした資料の相互貸借を行っている。（「京都府図書館総合目録ネットワーク（K−Libnet）運営規定」に基づく）
京都大学	生涯学習部 市民力推進課	持続可能な食と農のあり方を探るプロジェクトに関する総合地球環境学研究所との協力・連携・交流 ※研究フィールドの提供
	まちづくり推進部 都市計画課	「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム」構想策定に関する研究・事業協力
京都大学防災研究所	総務部　自治防災課	平成27年度に京都府の土砂災害情報高度化検討事業において、亀岡市千歳町をモデル地域として実施。今年度、京都大学防災研究所の研究プロジェクトの一環で取組を予定。
京都大学附属図書館	教育委員会 図書館	京都府内の公共図書館等が加盟する京都府図書館総合目録ネットワーク間で、調査研究を目的とした資料の相互貸借を行っている。（「京都府図書館総合目録ネットワーク（K−Libnet）運営規定」に基づく）
立命館大学	生涯学習部 市民力推進課	亀岡カーボンマイナスプロジェクトおよび１まち１キャンパス事業に関する研究・事業協力
	生涯学習部 市民力推進課	地域共創プロデューサー育成プログラムに関する連携・協力 ※大学院生長期インターンシップ
	総務部自治防災課	セーフコミュニティモデル地区の取組として、篠町のＳマップを北海学園大学・立命館大学と連携して平成２８年度に印刷・配布した。

※上記には、大学教員等の審議会委員等の協力は含みません。

大学名	担当部署	連携内容
龍谷大学	市長公室　人事課	地域人材育成に係る相互協力 ※大学院生長期インターンシップ
	生涯学習部 市民力推進課	亀岡カーボンマイナスプロジェクトおよび1まち1キャンパス事業に関する研究・事業協力
京都女子大学	健康福祉部 こども未来課 総務部 自治防災課	セーフコミュニティ乳幼児の安全対策委員会の取組として、京都女子大学と連携して啓発冊子及びポスターを平成28年度に制作し、29年度から乳幼児健診等で活用開始。
京都造形芸術大学	生涯学習部 市民力推進課	「かめおか霧の芸術祭」開催に係る連携・協力
京都教育大学 附属図書館	教育委員会 図書館	京都府内の公共図書館等が加盟する京都府図書館総合目録ネットワーク間で、調査研究を目的とした資料の相互貸借を行っている。（「京都府図書館総合目録ネットワーク（K-Libnet）運営規定」に基づく）
同志社大学	健康福祉部 高齢福祉課 総務部 自治防災課	セーフコミュニティ高齢者の安全対策委員会の取組として、高齢者の介護予防教室が医療費・介護給付費に与える経済的効果の検証を京都学園大学・同志社大学を中心とする研究グループと平成28年度から行っており、平成29年度に報告書が完成予定。
同志社女子大学	健康福祉部　保育課	教育の振興及び児童福祉の向上を目的とした学術交流や人材育成の取組みに関する連携と協力 ※砂場の研究
名古屋文理大学	生涯学習部 市民力推進課	持続可能な食と農のあり方を探るプロジェクトに関する総合地球環境学研究所との協力・連携・交流 ※食のアンケート実施・分析
福知山公立大学 メディアセンター	教育委員会 図書館	京都府内の公共図書館等が加盟する京都府図書館総合目録ネットワーク間で、調査研究を目的とした資料の相互貸借を行っている。（「京都府図書館総合目録ネットワーク（K-Libnet）運営規定」に基づく）
北海学園大学	総務部 自治防災課	セーフコミュニティモデル地区の取組として、篠町のSマップを北海学園大学・立命館大学と連携して平成28年度に印刷・配布した。

※上記には、大学教員等の審議会委員等の協力は含みません。

桂川を進む再現された12連の筏（17日午後2時20分、京都市西京区）＝撮影・松村和彦

郷愁の筏流し 悠々と

渡月橋上流で再現

丹波地方から京都への材木の輸送手段で、昭和30年代に途絶えた「筏（いかだ）流し」が17日、都市の桂川（保津川）で再現された。約50にもなる12連の筏が、渡月橋の上流約25mをゆったりと進んだ。（19面に関連記事

2007年から筏流しの復活プロジェクに取り組む官民学の団体でつくる「京筏組」と京都学園大民俗学研究室、NPO法人プジェクト保津川が、筏流しの再現を通じてへの関心を高めてもらう目的で実施した。年には亀岡市内でも12連の筏を流している。

午前、保津川下りを運航する保津川遊船業組合の船頭と大学生らが丸太を組んで筏完成させた。

午後2時、船頭の4人が筏に乗って岸をれ、1人が先頭の筏のかじを操作し、3人さおで川底を押してゆっくりと進めた。両では大勢の見物人が見守った。

京筏組の代表者の一人の手塚恵子同大学授は「無事にできて良かった。筏が流れる川はとてもきれいだった」と話した。

（加藤華江

京都新聞HPに動画

京都新聞

12月18日

月曜日

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.

発行所　〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル

〒621-0814
京都府亀岡市三宅町二丁目六番五号
(有)楠新聞舗販売センター
電話（〇七七一）二二一四九三一（代表

丹波

京都新聞
12月18日
月曜日
京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.
発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル

桂川で再現 12連の「筏流し」

伝統の藤づる使い固定

船頭中心に学生ら40人

寒風の中、組み作業

㊤船頭に教わりながら、筏を組むための藤づるを結ぶ学生㊦川に入って筏を連結させる作業をする船頭たち（京都市右京区・桂川）

京都市の桂川（保津川）で17日再現された「筏流し」は、同日朝から右京区の川沿いで筏を組む作業が行われた。雪がちらつく厳しい寒さの中、作業者が川に腰まで漬かりながら木材を藤づるなどでつなぎ、計12枚を完成させた。

作業は、かつて保津川で働いていた筏士から直接手ほどきを受けた保津川遊船企業組合の船頭4人が中心となり、京都学園大と京都府立林業大学校の生徒らも合わせて約40人で進めた。

筏1枚に長さ4㍍の丸太を7～9本使用。両端にU字形の金具を打ち付け、細い木を通して筏の形に組み上げた。丸太の固定には、針金のほかに伝統的な材料である藤づるも用いた。

12連につなぐ前に学生たちが筏に試乗した。京都学園大2年の伊原智希さん（20）は「初めてだけど、想像していたより安定していた。川の上は気持ちがいい」と笑顔だった。

筏流しが成功した後は、川沿いにある琴ケ瀬茶屋（西京区）で公開され、見物した大人や子どもらが間近で観察したり、乗ったりした。地元の松尾小6年鎌田芽依さん（12）は「思っていたより長かった」と驚いていた。（加藤華江）

〒621-0814
京都府亀岡市三宅町二丁目六番五号
(有)楠新聞舗販売センター
電話（〇七七一）二三－四九三一（代表）

丹波

かめおか里道トレイル 歩いて

地元登山愛好家ら「魅力発見を」

亀岡市の登山愛好家たちが、市内を一周する「かめおか里道トレイル」の知名度アップに力を入れている。京都市内の東山などを巡る「京都一周トレイル」が人気を呼ぶ中、亀岡でも新たな観光資源になり得ると考え、「亀岡の魅力を発見できるコース。多くの人に歩いてほしい」と呼びかけている。

里道トレイルは2015年に完成した。京都学園大バイオ環境学部の学生たちが3年半かかりで道を整備し、地図も製作した。かつて集落間を結んでいた里道をつなぎ、総延長75キロの踏破は3日ほどかかるという。

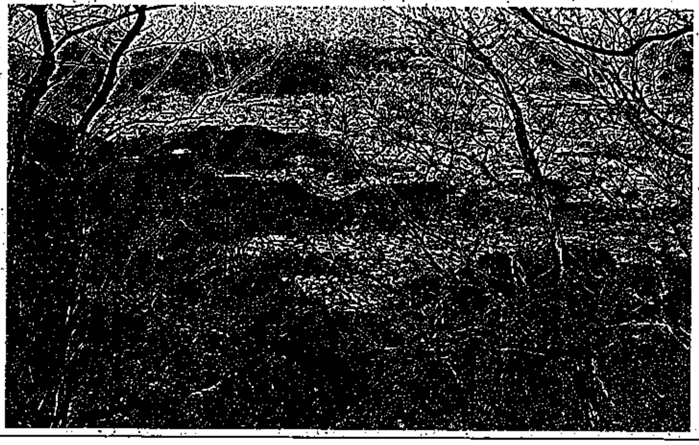
その後も学生らが定期的に道の安全性をチェックし、地元住民の要望を受けてルートを改善するなど、地道に取り組みを続けているが、魅力があるにもかかわらず、市民の間でも存在があまり知られていないという。

せっかく整備されたのにもったいないと、登山愛好家でつくる「亀岡山の会」（亀岡市）のメンバーたちが11月中旬、トレイル道を歩き、登山ルートの安全性や景観ポイントなどチェックした。今後、知名度アップに向けた情報発信とともに参加型のイベントも企画したいという。

湯浅誠二会長は「亀岡の土地や歴史を知ることができる。登山でない道が多いので、お年寄りも楽しめそう」としている。地図は、スマホの無料アプリ「Explorer for ArcGIS」から取得できる。

（藤松奈美）

京都学園大生が作った地図で確認しながらトレイルを歩く登山愛好家たち（亀岡市篠町・明神ケ岳）



亀岡市内を一望できるスポットもある

お節料理
仕出料理専門店
冠婚葬祭一般
まつなみ
大晦日にお届け、大晦日夕方着の宅配便も可
宮津市天橋立二本松
☎0772-46-2753
まつなみ　検索